

# 「命の水を守る決意必要」

## 宮高25期生 友利さん(医学博士)が訴え

### 南秀同窓会講演会



友利さん(奥)が地下水汚染について講演した=31日、宮古高校

宮古高校の卒業生組織である南秀同窓会(安谷屋政秀会長)による講演会「命の水」地下水を守れますか?」が31日、同校で全校生徒を対象に開催された。同校25期生で医学博士の友利直樹さんが講師を務めた。友利さんは「宮古島の地下水を守るため、地下水汚染の解決方法を考え、命の水を守るための強い決意と実行力が必要だ」と生徒たちに伝えた。

友利さんは信州大学医学部を卒業した後、東京女子医大病院で内科医として診療に従事。1989年から宮古病院勤務。95年からは、東京都小金井市に内科診療所を開業し、現在も医師活動を続けている。

講演会は同校視聴覚室(各クラス代表約40人参加)と各教室をオンラインでつないで開かれた。

宮古島の水問題について友利さんは、化学農薬や化学肥料などによる地下水複合汚染が最も深刻な危機であることを指摘。一度汚染された水を元に戻すことは難しいことから、行き着く先は水が飲めない、人の住めない「沈黙の島」になると警鐘を鳴らした。

その上で「市民、行政、利害関係者が一体となって地下水全体を協働的に管理すること。地下水保全条例を改正し、宮古島全域を水道水源保全地域に指定すること。地下水の現状を知り、『命の水』を伝えていくことが必要」と訴えた。

講演会の前には同会の下地信輔副会長から同校へ支援金が贈呈された。

宮古毎日新聞